

# [ビーズ破砕機] ビーズクラッシャー ルTーロ1 サンプル破砕の実績例



# 植物細胞・組織

サンプルの姿 破砕前 破砕後



# 骨格筋(ニワトリ)

サンプル量: 100mg 破砕時間:30秒 使用ビーズ: ø5mm SUSビーズ × 1個







サンプル量: 100ma 破砕時間:15秒 使用ビーズ: ø5mm SUSビーズ × 1個







# 頚椎(ニワトリ)

骨(ニワトリ) サンプル量: 100mg

破砕時間:30秒

サンプル量:100mg 破砕時間:60秒 使用ビーズ: ø5mm SUSビーズ × 5個

使用ビーズ: φ5mm SUSビーズ × 1個





サンプル量:100mg 破砕時間:60秒 使用ビーズ: ø3mm SUSビーズ × 10個





サンプル量:100mg 破砕時間:60秒





使用ビーズ: ø5mm SUSビーズ × 5個



# バキの仲間)

プル量: 100mg 破砕時間:60秒 使用ビーズ:φ5mm SUSビーズ × 3個









サンプル量: 100mg 破砕時間:5秒 使用ビーズ: φ5mm SUSビーズ



サンプル量:200mg 破砕時間:60秒 使用ビーズ:  $\phi$ 5mm SUSビーズ × 3個



# サンプル量:50mg

使用ビーズ:φ5mm SUSビーズ × 1個









使用ビーズ:ø5mm SUSビーズ × 3個



画像中: φ0.3mmガラスビーズ 4分間処理

画像右: ø0.5mmジルコニアビーズ3分間処理

画像右: Ø0.5mmジルコニアビーズ1分間処理

画像左:破砕処理前











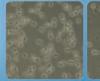


サンプル量:100mg 用ビーズ:φ5mm SUSビーズ × 3個



-タご提供:東洋大 伊藤政博教授















特注2ml容器 + 金属クラッシャー(1個)

ビーズ式破砕の条件には、ビーズの種類、径、個数、振とう速度、振とう時間、緩衝液の種類や量そして試料の種類や量といった多くのパラメータがあります。破砕後のアプリケーションにより重視する項目も異なります。以下に掲載する情報を破砕条件の最適化にお役立てください。ビーズ式破砕における破砕力は主に添加したビーズの質量に依存します。同じ径ならば比重の大きい材質のもの(図1)、同じ材質ならば径の大きいビーズの方が高い破砕効率が期待できます(図2)。ただし、試料に応じたビーズの選択が必要となります。たとえば、ビーズの径が破砕対象より極端に大きい場合には、ビーズの間隙により、十分な破砕効果が得られません。ビーズの選択の大まかな基準を図3に示します。破砕条件の最適化には、破砕効率以外にも留意する必要があります。特に蛋白質の抽出用途の場合は、ビーズの衝突による発熱、溶液の泡立ちにより、蛋白質の変性の恐れがあるため、運転時間、チューブ内の溶液量などに気を配る必要があります(図4)。

### 図1 ビーズ式破砕に用いられる主な材質の比重

材質	比重 (g/cm³)
ガラス	2.5
ジルコニア	6.0
ステンレス (SUS304)	7.9

# 図2 同一素材の径の違うビーズの重量比 (B3/A3)

	A						
		5	4	3	2	1	
В	5	1.00	1.95	4.63	15.63	125.00	
	4	0.51	1.00	2.37	8.00	64.00	
	3	0.22	0.42	1.00	3.38	27.00	
	2	0.06	0.13	0.30	1.00	8.00	
	1	0.01	0.02	0.04	0.13	1.00	

例えば、直径5 mmのビーズ1個の重量は4 mmビーズ1.95個、3 mmビーズ4.63個、2 mm ビーズ15.63、1 mmビーズ125個に相当する。

# μT-01で使用可能なマイクロチューブ

- 一般的な2 mLのねじ口式マイクロチューブが使用できます。 (代表的な例は下の表を御覧下さい)
- コニカル型 (V底)、自立型 (スカート付) のいずれにも対応しています。
- φ1 mm以下の径の小さなビーズを使用する場合は1.5 mLチューブも使用可能です。
- ループつきのチューブ、細胞の凍結保存用の「クライオチューブ(バイアル)」は ホルダーに取り付けることができませんので ご注意ください。

供給元	確認	品名	型番	備考
ワトソン	0	2.0 ml スクリューキャップチューブ、コニカル型	1392-200	
ザルスタット	0	2.0ml 凍結保存チューブ(ギザあり)底部形状:V底	72.693	3mm以下のビーズを使用
イナオプティカ		2.0 ml スクリューキャップチューブ、コニカル型	2220	BIO-BIK

### 図3 ビーズ選択の基準



## 図4 破砕条件、留意事項

・試料・緩衝液を予冷

イクルで運転

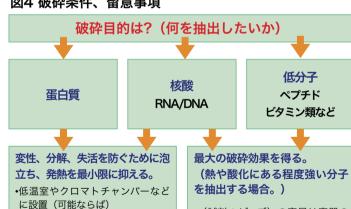
節する。

(試料+ビーズ)の容量は容器の上

限近く(空気をなるべく入れない) •15-30秒運転/15-30秒氷上静置のサ

•振とう速度は最高(4600rpm)セット

した方が処理時間が短く有利であるが、試料や緩衝液によって泡立ちが目立つ場合は振とう速度を調



- ・(試料+ビーズ)の容量は容器の 上限の1/2程度
- ・顕著な温度上昇が認められない範囲で振とう時間を延長し、必要に応じて試料を氷冷
- •振とう速度は最高に(4600mm)セット